

ASEAN グローバルプログラム に参加して

寺田 雪乃
Yukino TERADA
情報メディア学科 2年

1. はじめに

2018年8月28日から9月6日にかけて ASEAN グローバルプログラムに参加した。ベトナムでの企業訪問、PBL、シンガポールでの NTU（南洋理工大学）見学、ビジネスパーソンとの交流会や講演会などに参加した。具体的な日程は表1に示す。

表1 プログラム日程

8/28	出国、ハノイ着
8/29	企業訪問
8/30	ハノイ工業大学での PBL
8/31	ハノイ工業大学での PBL
9/1	文化施設見学、自由行動
9/2	ハノイ発、シンガポール着、企業訪問
9/3	NTU 見学
9/4	企業訪問、ビジネスパーソン交流会、講演会
9/5	自由行動、シンガポール発
9/6	帰国

2. 参加目的

私がこのプログラムを志望した理由は二つある。一つは今まで海外に行ったことがなかったことから、一度海外を経験してみたいと思ったからであった。もう一つは自分の英語のスキルを向上させたいと思ったからだ。

これらの理由から、私はプログラムに参加するにあたって以下の目的をたてた。一つは海外の文化を知り、触れ合ってみること。もう一つは海外の人と英語で話せるようになることだ。

3. 研修内容

3.1 PBL について

プログラムの行程の中で最も学びが多かったのはハノイ工業大学生との PBL であったと思う。よって、本稿ではその PBL について報告する。

この PBL では、「鈴木栄光堂ベトナムのキャンディをベトナム市場で大ヒットさせる」というテーマのもと、日本人学生5人とベトナム人学生2人のグループ（全体で8グループ）で PBL を行った。PBL の流れを以下に示す。

1. 仮説の設定
2. ベトナムの消費者へのアンケート作成
3. リサーチ
4. アンケート結果の集計・分析、仮説検証
5. リサーチ結果まとめ、プレゼンの準備
6. 英語及び日本語でのプレゼンテーション

3.2 PBL 一日目

仮説の設定とアンケートの作成は、ベトナムに行く前に一通り、日本で行っていた。私たちのチームで設定した商品の売り上げを向上できる仮説は、「若者や子供向けの要素の追加」、「バイクに乗っている時や忙しい時に食べれるようにすること」、「ベトナムで好まれる味への改良」、「子供の好きなキャラクターを商品のモチーフに下宣伝」、「Facebook の広告機能の活用」の5つであった。ベトナム人学生とは事前に、Skype やメールである程度打ち合わせをした上で現地での活動を行った。現地ではまず、ベトナム人学生と英語で最終の打ち合わせをし、アンケートの微修正をした。頑張って意見を言おうとするものの英語が出てこなかったり、ベトナム人学生の英語が聞き取れなかったりと、なかなか話し合うことができなかった。また積極的なベトナム人学生に圧倒され、その後のベトナム工業大学内、および AEON モール内でのアンケート調査も、ベトナム人学生中心になってしまった。しかし打ち

合わせや調査の合間にはベトナム語を教わったり、一緒に昼食を食べたりすることを通して、文化に触れあうことや交流することができた。

一日目の夜には日本人学生でアンケート調査の集計を行った。集計の結果を元に、先生方からアドバイスされたこともあり、私たちのグループは仮説を再設定することに決めた。夜遅くまで話し合い、仮説を、「すでに販売されている餡の味よりも人気が出る餡を作る」、「バイクに乗る時、片手で食べやすい餡を売ると人気が出る」、「バイクに乗っている時に食べると眠くならないような餡を売ると人気が出る」の3つに、内容を絞ったり、より具体的に改善した仮説にした。それに伴ってアンケートも再度作り直した。眠気に負けそうになりながらも、このPBLをやりきろうという思いで、日本人の班員で力を合わせて頑張った。

3.3 PBL 二日目

ベトナム人学生に仮説とアンケートを変更することを受け入れてもらえるか不安であったが、理解してもらえたので安心した。よって、急いで再びアンケートの修正、作成（印刷）、ベトナム工業大学内での調査を行った。一日目と比べると積極的に活動に関わることができた。

その後、アンケート結果の集計を行い、その結果をプレゼンテーションで使うポスターにまとめた。発表までの時間が残り少なくなるなか、日本人学生もベトナム人学生も互いに精一杯良いものを作ろうとしていた。発表において私たちのグループでは、ベトナム人学生と日本人学生が一人ずつ代表となり、英語で発表した。どのグループも時間が無かったのにもかかわらず、とても良いものができていたと思った。全てのグループの発表が終わった後、先生方が話し合わせ、一番目と二番目を決められた。

私たちのグループは見事二位に輝いた。途中で仮説とアンケートを変更するという事態があったのにも関わらず、このような順位をとることができ、このPBLにおける今までの努力が報われたように感じた。

3.4 ベトナム人学生との PBL を通して

このPBLを通して自身の英語力が全く足りていないことを実感した。特に英語を聞き取ることができず、ベトナム人学生が話していることがなかなか理解できなかった。ベトナム人の学生にとっても英語は母国語ではないのにも関わらず、流暢に話していることから、私はもっと英語の勉強をする必要があると感じた。

もう一つ感じたのは、もっと積極性を持つべきだということだ。PBL中ベトナム人学生は常に中心となって頑張っており、積極性が高く感じた。私もこのような積極性を持つべきだと決心した。

4. おわりに

このプログラムを通して、自分ももっと英語を鍛えなくてはならないと感じた。海外の人と英語で話せるようになるという目的は、残念ながらあまり達成することができなかった。ただ、聞き取ることができず、会話をしようとしても単語がなかなか出てこなかったため、これから英語の聞く、話すということにもっと慣れねばならないという課題を見いだせた。

一方、もう一つの目的である海外の文化を知り、触れ合ってみることは達成できたように思う。海外の文化を知ることによって日本の文化の良さも発見することができた。このプログラムを通して得た経験や発見を将来に役立てていきたいと思う。